

# 一般会計ピーク時予算(H13)から30%減 10年ぶり100億割る予算



子どもたちのゆめは

むかしお年寄りがみていたもの

笑顔で行動し

将来の礎を築く！

ディサービス ゆとろにて

平成16年第1回定例会は、3月8日～19日まで(9日、11日～16日は休会)の12日間の日程で開催されました。8日の初日には、泉町長と橋教育長が町政・教育行政執行方針を述べ、5名の議員が総括質問をしました。

また、休会中に平成16年度当別町各会計予算審査特別委員会(谷委員長)での集中審査の結果、提案議案すべてを原案のとおり可決しました。

全体予算は年々減っていますが、町民一丸となりがんばりましょう。



弔慰金支給条例の廃止ほか

人件費削減、

# 議案全33件を可決

平成十六年度予算は、予算審査特別委員会を設置し、慎重審査の結果、これを可決しました。本定例会では、閉会中に審査、付託されたスウエーデンヒルズの展望公園に関する陳情書五件について、総務常任委員会より報告があり、また、産業建設常任委員会から

請願書一件に対するの報告がありました。議員提案は議会議員の期末手当の減額に関する条例など三件が上程され、これを可決しました。

## 少ない予算の効率配分

危機的な町財政の抜本的な立て直しを推進するため、人件費の削減を行う。土木工事では新規事業の実施はせず。継続事業のみとしました。

第一回定例会最終日の三月十九日谷本辰美助役が平成十六年三月三十一日をもって退職することから、後任に佐々木保氏が満場一致の同意を得て助役に選任されました。同氏は、昭和四十九年に北海道に奉職し、石狩支庁地域政策部地域政策課長、総合企画部計画室主幹等を歴任されました。

## 助役に佐々木 保氏を選任



(園生在住・五十二歳)

△構想に賛同し、来るべきIT時代に備えます。

## 所信に対する

### 総括質問

定例会初日の町長並びに教育長の町政・教育行政執行方針に対し、島田議員、岡野議員、堀議員、小寺議員、桐井議員の五名が総括質問を行いました。詳しくは六ページから十ページに掲載しています。

## 一般質問は5人

一般質問は、十八日から十九日までの二日間行われました。稲村議員、石川議員、山田議員、白木議員、柏樹議員の五名が登壇し、町政を正しました。詳しくは十一ページから十五ページに掲載しています。

閉会中に審査・付託された  
**請願・陳情**

《総務常任委員会》

(仮称)展望公園整備計画と散策路に関する陳情書

陳情団体

スウエーデンヒルズの自然を考える会

代表 田中 俊英

展望公園整備事業の推進に関する陳情書

陳情団体

当別町商工会

会長 河村 佳男

(仮称)展望公園整備計画に関する陳情書

陳情団体

スウエーデンヒルズ

町内会

町内会長代行

山田 幸雄

(仮称)展望公園整備計画に住民意見の反映を求める陳情書

陳情団体

当別の自然環境を考える市民連絡会

代表幹事

浜野 武範

展望公園整備事業の推進に関する陳情書

陳情団体

当別町観光協会

会長 泉亭 俊徳

# の理解できる り良い！町政を！

平成16年度当別町各会計予算審査特別委員会は、3月10日から17日まで（13日、14日は休会）の8日間の会期で開かれました。一般会計をはじめ、水道事業会計、六特別会計を慎重に審査しました。



前年度借換債対応分

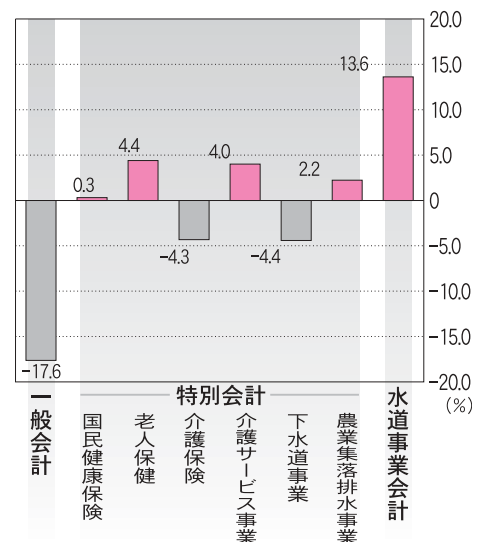
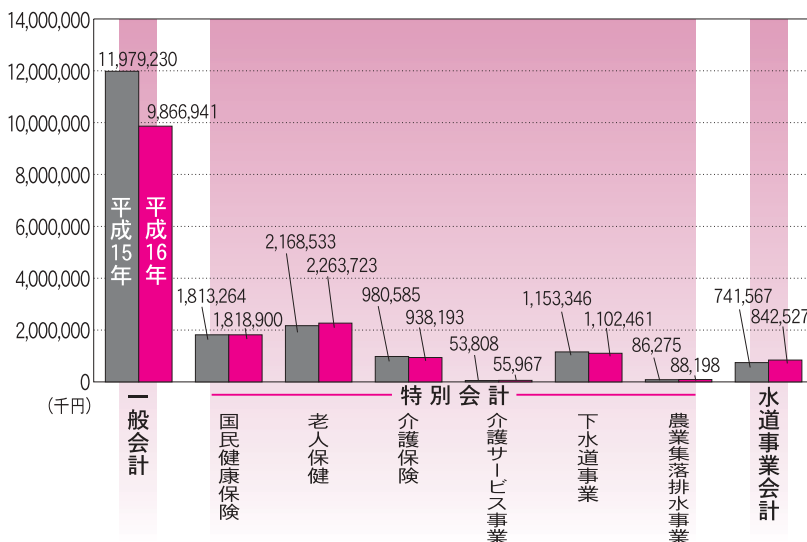
20億減

（前年度より更に実質規模で1.4%減）

## 一般会計・特別会計・水道事業会計

予算

H15・H16比較 増減率



# 町民が 共通よ

## 平成16年度 当別町各会計 予算審査特別委員会

本年度の予算は昨年度に比べ、一般会計で十七・六%減の九十八億六千七百万円、水道事業会計等を含む総額では十・五%減の百六十九億七千七百万円で、特に借換債を両年度から除いた実質予算額は、一般会計では昨年度に比べ一・四%減の九十五億九千万円、総額では〇・二%減の百六十七億百万円となり対前年度比四年連続マイナスの緊縮型予算となっている。また、臨時財政対策

債においても前年度比二・十八・六%減となっており、地方交付税との両方の削減で非常に厳しい予算編成となっている。特に国の三位一体の名のもとに、地方における歳入財源の削減が進む中では、財政の見通しが全く立たない状況下において、町は安定した財政運営を持続させるためにも、国・道に地方の困窮している現状をあらゆる機会を通じ、粘り強い要請行動を展開されたい。

更に、職員の期末・勤勉手当、町三役並びに議員の期末手当の人件費の削減の中で予算編成であり、この実情を町民に周知し理解を得ると共に、町民と行政が協調してより良い行政を進めるためにも、町政執行に当たっては、万全の体制で臨むべきである。

### (1) 歳入について

町税は十八億三千四百万円と、昨年度に比べ、ほぼ横ばいではあるが、前述の通り、地方交付税臨時財政対策債は四十一億八千二百万円と、十五年度決算見込より七・九%減の予算措置となっている。町の各種基金の残額は、新年度予算編成措置の結果、もう後がない状況にあるので、尚一層、財政の健全化に向けて、努められたい。

国民健康保険特別会計について  
収納率の低下に歯止めをかける体制の強化を図り、より一層健全なる国保会計運営に努められたい。また、資格及び短期証明書の発行に当たっては、被保険者の立場に立つて特に慎重に期されたい。

### (2) 歳出について

民生費、農林水産業費等を除き、各款にわたり前年度と対比し、ほとんどの款が減額予算計上となっており、更には、歳出全般にわたり事務事業の廃止、休止、繰延べ等が図られ、前年度にまして厳しい財政下ではあるが、限られた予算の範囲内で、住民サービスの低下を極力抑えられ、より効率的な行政執行に当たられたい。

なお、教育財産の貸付使用については、貸付対象物品の使用目的効果等、実情を十分勘案し、事務的精査も含め、業務遂行に当たっては適切な対応を図られたい。

### 3 特別会計において

は、住民の健康を守る重要な会計なので、安心して利用出来る制度の充実を図るべきである。

### 下水道事業・農業集落排水事業特別会計・水道事業会計について

3 会計においては、各々経営内容を精査し、合理化・経済性を考慮され、適正な事業執行に努められたい。

### 以上のとおり報告したが、今後理事者をはじめ

各職員において、各部署の連携と事務的資質の向上に努め、町民の期待にそつよう研鑽されたい。以上、本委員会の報告とする。

## 固定資産評価審査委員会委員に

### 渡邊 仁志氏 古谷 陽一氏 を選任



渡邊 仁志氏  
(末広在住・69歳)

固定資産評価審査委員会委員の渡邊仁志氏は、平成十六年三月十九日をもって任期満了となることから、再任に付いて町長より提案があり、議会は満場一致で同意しました。



古谷 陽一氏  
(中小屋在住・53歳)

また、三富忠雄氏が、平成十六年三月二十一日をもって任期満了となることから、古谷陽一氏を選任することについて町長から提案があり、議会は満場一致で同意しました。

### 一般会計について

(1) 歳入について

町税は十八億三千四百



# 町政・教育行政執行方針表明

## 議員 5 名が総括質問 !!

(執行方針要旨については、「広報とうべつ4月号」をご一読願います。)

### 総括質問

#### 合併特例法期限内に 間に合うのか

島田 裕司 議員  
(緑風会)



当別大通の早期完成などを国や道に要請すべき  
問 当別大橋の改築の早期事業化は、これまでも道に要請しているが、完成年度については、めどが立っているのか。併せて道央圏連絡道路、札幌

大橋から国道二七五号間の早期四車線化の全面開通、さらに当別ダムの早期建設などについても、国や道に強く要請すべきでないのか。  
町長 当別大橋の事業化については、石狩当別駅から幸町の土地区画整理事業区域を含めて、八六〇mが平成十九年に完成する予定になっている。二七五号から当別大橋を含めた区画整理事業のところまでの二六〇mについても平成十九年度までに接続要望を続けている。平成十五年は現地調査を実施して概略設計をしている状況もあり、今後、橋梁の予備設計などの事業着手を進めていると伺っている。当別ダムは当別にとっては洪水調整のためには絶対不可欠であり、同時に当別町民のライフラインとしては代替案のないものである。



大型車の通過とともに春風が舞う当別大橋

今後とも早期完成に向け取り組んでいく。  
町村合併について  
問 合併特例法期限内に合併することは当別、新篠津、月形で合意していた事項なのか。  
町長 任意合併協議会で検討した基本四項目、対等合併であること、合併特例法期限内に合併を終えること、役場の位置、それから新町の名称、この四項目については法定協議会を設置しても継承することを確認している。

問 月形町民が当別、新篠津と合併を目指したいという確認をどうとるのか。  
町長 任意協議会の会長の新篠津村長による三首長会議を開いていただき、そのとき述べられることが、それぞれの自治体を代表する意志と受けとめたい。ただ、今、月形町長選挙を直前に控えている事情もあり、三首長会議の開催については、お互いに慎重を期するところであると思っている。

問 今のこの法定協議会立ち上げのスケジュールで来年の三月三十一日の申請期日に間に合うのか。  
町長 三首長会議で早急に確認し合いながら間に合うようにすべきだと考えている。今でも三町村の枠組みがよいと信じており、早く新篠津村の村長のお計らいで三首長会議が開かれることを願って、町民に対する説明会を精力的にこの後も進めていく。

美しいまちづくりの最終的に目指すものは何か  
問 泉 町政の基本方針の骨格をなす美しいまちづくりが最終的に目指すところは何か。  
町長 先人が築いてきた町をさらに魅力あるものにしなければならない。札幌の隣町としての利便性に加え環境の良さということが重要だと考えている。情報とかも含め環境を良くするということは、町民一人ひとりができる分野から築き上げていくことであり、最終目的は際限なく続くものでないかと思っている。

## 商店街での購買力を

岡野 喜代治 議員  
(清流)



### 幼保一元化について

問 少子高齢化社会に対応した福祉施策の推進を述べているが、今日的に幼保一元化が自治体の判断や特区として進んでいると思う。当別町においても考える時期にきているのではないかと。町長の考えを伺いたい。

町長 少子化に伴う保育所及び幼稚園の定員割れが続いており、統廃合を検討する時期である。施設も老朽化が激しく大規

模改修の必要性があるが、財源確保が難しい状況である。幼保一元化は、構造改革特区の段階であること、町村合併などから当別町子育て行動計画の策定委員会に諮り検討したい。

### 商店街への取り組み

問 商店街活性化への新たな取り組みとしてチャレンジショップ事業を実施するなど商店街に人が多く来る街につとめているが、商店街により購買力をつけるための施策が必要と考える。町長の考えを伺いたい。

町長 平成十六年から商店が個性的な店舗で工夫し、消費者ニーズに応え

る事が重要と考えており、当別町商業活性化基本構想に基づき、商工会とともに支援していきたい。「まちの駅」あえるるなどで二万人近くの町民が集まってくれる。一生懸命やっている商店もある。二万人集まることを自分の商業活動に結びつける工夫が重要である。

### 当別ダムの建設について

問 元町浄水場の老朽施設、設備の更新も終了、今後、都市計画事業に伴う水道施設の整備を進めていくが、生活基盤として町民にとって安定した上質な水が望まれていると思う。今年度の当別ダムの建設計画は、地域産

業への影響は。道や国への働きかけについて町長の考えを伺いたい。

町長 十六年度ダムの付け替え道路の延長は七〇〇m位施工する予定である。山間部なので擁壁、のり面工がある。約七〇〇mに一〇万三千㎡の土量を動かす。全体では数十個の橋が付く計画になっており、大きな橋の名前は地元と地域にいた住民の思いを残すものになることを道も検討している。十六年度ダム下流の道路改築工事は八二〇mの予定である。十六年度事業費は十四億四千三百万円と聞いている。ダムは、洪水調節、農業用水、石狩西部広域水道企業団の水源として、当別町のライフラインに絶対必要であるので、早期完成に努力をしたい。工事に伴う、町内の経済効果に好影響が出るように商工会などとタイアップし、引き続き進めたい。

アウルのイベント



### その他質問

- ・新しい行政システムの確立について
- ・教育行政について

## 老いも若きもそして 子供達も明るく暮らせる 町を目指して

堀 梅治 議員  
(日本共産党)



### 命と暮らしを守る予算について

問 清潔公平について今政官財の汚職の問題が国民の政治不信の大きなおもとといわれている。当別町にも国や道と同じようなことがやられているのではないかと。町民の声もある。町長の考えを伺う。

町長 町政、国政と政治行政に携わる者が清潔感を持ってしていると表明する

ことを有権者は求めていないと考える。それは当然の義務というよりも当たり前の認識である。言われるような認識は十分にしている。

### 町村合併について

問 町村合併については目的と展望を明らかにし町民の意向を酌みつくし法定協議会設置は合併を前提とするのではなく議論をしつくし町民に資料を提供し合併の是非については町民の意向を尊重するべきと考えるが町長の考えを伺う。

町長 合併するか否かにかかわらず広く住民の意見を聞いて判断するということ考えは今も変わっていない。町民に判断材料を提供する時間も極めて少なくなっているため、既に各町内会との懇談会を開催している。あわせて議員のご意見をいただき、合併の可能性を追求したい。新篠津村長には三町村長会議の開催をお願いしている。そこで相手方の意見も聞いて、合併協議の今後の進め方を明らかにしたい。



補正予算の後退について  
問 町民の命と暮らしの問題は地方自治の根幹である。昨年に引きつづきの後退は残念でならない。私達共産党として町長と話し合っていたこと

で町長から福祉を大事にすることは理解するとのことにより他の町村並以上の福祉を目指すべきと考えるが考えを伺う。

町長 十六年度予算でも他の予算はトータル的に減額しているが、福祉関係予算はどうしても伸びていく。個人や地域でできること、行政がしなければならぬこと、それぞれの役割を果たして地域全体が支え合う地域福祉づくりが必要である。従来福祉サービスを見直し、効果的に重点的な事業実施に努め、命と暮らしを守ることの重要性は当然の認識であり、最大の努力をしている。

教育について  
問 不登校についてどうしているのか伺う。

教育長 当別町では毎年十人前後の不登校児童が

いる。事態の改善に向けてさまざまな取り組みを進めているが一人ひとりに即した指導や対応について、これからも適切に進めていきたい。

米改革大綱について  
問 当別町の方針も出され、今、取り組みの最中だが私はこの米改革大綱に反対の立場であるが、

今、町の方針のとおり実施されて三年後に当別町の農業の展望はどうひらかれると考えるか伺う。

町長 推進協議会で議論し、地域ぐるみの営農の形をつくらなければ、しっかりとした当別の水田農業ビジョンにならない。

今後、農業者や消費者の総意を集めたビジョンに沿って推進していくと一〇〇%農業で生計を立てられる、あるいは生計を補うことができる人が相対数ふえると思う。町の施策に一〇〇%依存することではなく、農業者自身の自覚が大きい。施策の中で農業者に頑張ってもらいたい。



お年よりも安心のサービス

財政再建について  
問 財政的自立がなくては、町民の不安はつねに

ばかりである。昔から貧すれば鈍するとの言葉にもあり今こそ二十年三十年を見通した自立できる財政計画をもつべきと考える。町長の考えを伺う。

町長 本年度の予算編成では、徹底した経常経費の削減を実施した。住民サービスの見直しや行政と住民の役割分担を行政推進員会議等で住民に理解をいただく。処分できる財産の掘り起こし、民間委託できるものや統廃合できる施設の検討、補助事業も含む事業の中止や繰り延べ、政府資金の借り換え要請、職員の適正な配置計画等、今まで

にない道筋をつける努力をしなければならない。

## 農業政策を どう推進するか

小寺 和昭 議員  
(民主の会)



地域農業ビジョンの  
推進は

問 地域農業ビジョンの策定や農村景観に配慮した美しい農村づくりなど方針を打ち出しているが新町へ移行した場合も継続していくか。

また、北海道が示している本道農業農村の持続的発展に向けた道内農業関係者の共通指針として策定され目標年次は十年後の二〇一三年を想定し、食、環境、人、地域という四つの視点から本道農業農村の将来像とその実現に向けた基本方針を示しているが、これらとの整合性を含めて町長の見解を伺う。

町長 農村景観に配慮した美しい農村づくりは、新町になっても継続すべきと考えている。水田農業ビジョンの協議会で検討されているものは、生産者、農業者団体がそれぞれのビジョンを持ち、合併自治体ができたとしても、三町村のそれぞれが尊重されてよいのではないか。  
北海道が案としてつくっている農業ビジョン21

アクションプランは、当別町が目指しているものと整合性は非常に近い。当別町の場合は、組織的に経営体をつくり、その中で認定農家の人が中心に頑張っていたら、地域のためにボランティア的な営農活動、リーダーになることについて、何らかの形で国から支援策をしてもらう要請をしている。これからも当別町として、あらゆる機会に道・国に要請を続けていきたい。

地方交付税減額で  
住民サービスの低下を  
まねかないか

問 国が進めている三位一体改革が十分な税源移譲がないまま地方交付税を大幅削減したために、自治体財政に大変な影響を与えていると思われるが住民サービスの低下をまねかない行政水準の確保や公立保育所管理費の一般財源確保に運営費の不足が生じないような財源措置等が課題となっているが町長の見解は。  
町長 当別町の実態として、常設保育所の運営費

補助金が従来は約五千万円。それが税源移譲により所得の譲与税として見込まれるものは三千四百七十万円。その差額が当別町の負担になる。施政方針で申し上げたのは、国に対し、三位一体と称して行われている現実の切なさを訴えている。

**市町村合併新法に  
対する見解は**  
問 ただ今、国会審議の中で知事の勧告権とか、合併調整委員の任命や合併特例債など財政上の優

遇措置は国の財政悪化を背景に基本的に廃止されるとか、あめが減らされ、むちの部分で前面に出てきたとの見方もされるが町長の見解を伺う。  
町長 新法になると、特例債が認められなくなる。交付税の算定替えは引き続き見込めるが、一番大切な新町建設計画でやろうとするものに特例債が認められないのが痛手となる。今の特例法の期限内合併の検討を進めなければならない。



みてよ！わたし、さかあがりできるんだよ！

## 少子高齢化社会にどう 対応するか

桐井 信征 議員  
(公明クラブ)



**地域農業ビジョンの  
推進は**

問 昨年八月任意合併協議会を立ち上げ、協議を行ってきた。町長は当別、月形、新篠津、三町村の組み合わせが望ましいと言っているように、私もそのとおりと思う。町長は十七年三月三十一日の合併特例法期限内に間に合うよう努力することであるが、ぜひ、その努力をしていただきたい。また、ここにきて、町村

間において溝、誤解があるように思われる。もし誤解、溝が生じているのであればこのことにも努力をしていただきたい。  
町長 平成十五年七月三十日に当別、月形、新篠津での任意合併協議会設置から、合併特例法の期限内に協議を終了し、合併支援が手厚いうちに合併できるよう努めてきた。今後、一層努力をしていきたい。しかし三町村間には住民の気風や歴史の違いから、のり越えなければならない課題もあるので一致点を見出せるよう協議を重ね、可能な限り三町村の合併を目指したい気持ちは今も変わらない。実現できるかを今後もういろいろな角度で考えていきたい。

**少子高齢化社会に対応する  
福祉施策の推進について**  
問 少子高齢化の波はいや応なしに來ている。

高齢者の知識や経験を活かしたコミュニケーション活動を推進し、地域の活性化につなげ、介護サービス、老人保健事業、介護予防施設を推進し、ま



シルバー人材センターでございませうーッ！

た、当別町子育て行動計画を策定し、障害児保育の受け入れ年齢の拡大、フレッシュ保育サービスの利用回数増加を図るとあるが、具体的にどのような進め方をしていくのか。今、町内には子育て支援サークルが八団体あると聞いている。このような団体に何らかの支援を考えていないのか。

町長 高齢者のボランティア活動やシルバー人材センターの仕事ができるように支援する。いつでも介護サービスが受けられる体制が必要である。老人クラブやシルバー

人材センターへ引き続き支援をするともに、デイサービスセンターの定員増加や転倒予防などの介護予防施策の推進をする。昨年七月に次世代育成支援対策推進法が制定され、全市町村で次世代育成支援の具体的な行動計画を策定することになり、本町では昨年十二月に小学校六年生以下の児童の保護者を対象にニーズ調査した推計を含め策定する。町内には子育てサークルが数多くあり、子供のよりよい育ちを願う親たちが集い、手づくりで運営をしている。子